

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築[簡易版] 2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCB\_2010bpi&bei(v.2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)あっとほーむ鎌倉山計画新築工事	階数	地上4F
建設地	鎌倉市苗田五丁目1909番, 1911番5, 常盤字九反田413番6	構造	木造
用途地域	第1種住居地域, 準防火地域	平均居住人員	70人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年7月18日
敷地面積	1,435 m <sup>2</sup>	作成者	三井ホーム株式会社
建築面積	654 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月22日
延床面積	2,384 m <sup>2</sup>	確認者	三井ホーム株式会社



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: A: B+: B-: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: 60%: 80%: 100%: 100%超

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 高齢者の住宅施設として求められる機能性を備えるだけでなく、入居者にも近隣の住民からも親しんでもらえる様な木造建築ならではの暖かなイメージを大切に建築とした。		<b>その他</b> 木造による大規模施設建築は、元来環境負荷がかかりにくく、CO <sub>2</sub> 削減のためにも求められる有意義な建築工法である。
<b>Q1 室内環境</b> 共用部は住宅の一部であることに配慮し、和のもつ華やかであり落ち着いた雰囲気を出した。各居室は開口を大きく確保し、明るく温かみのある内装とし入居者が満足して暮らせる空間とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 各階にコミュニケーションスペースを設け、入居者同士のコミュニケーションの場とした。各居室とは遮音壁で区画し、プライバシーにも配慮した。1階エントランス脇には近隣地域に開放するスペースを確保し、入居者との地域交流も行う。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 敷地条件により交通量の多い道路から奥まったエントランス位置とし、ゆったりとした利用者にとって安心・安全なアプローチを確保した。建物周辺には植樹帯・緑化ブロックを施し、緑により景観及び温熱環境にも配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 日射や室内外の温度差による熱損失・熱取得の低減につとめ、冷暖房の使用エネルギー量を削減するために、窓部には省エネルギー性の高い複層ガラスを採用した。また、使用頻度の高い箇所にLED照明を採用し、省電力化に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 木造(枠組壁工法)の特徴でもある持続可能な木材(カナダの森林から供給)を構造材に用い、資源・環境へ配慮した。また、節水型設備機器を積極的に採用し、省エネルギーへの配慮をした。	<b>LR3 敷地外環境</b> 外観は、勾配屋根を持つ家型とし、住宅地である街並みに溶け込む色調とする。建物外周部にはバルコニーを設置し、隣家との視覚的なプライバシー保護及びグレア対策へ配慮した計画とした。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される